

2010年10月1日

日本物理学会 2010年秋季大会:

誘電体分科インフォーマルミーティング(IM)議事録

日時: 2010年9月25日(土) 17:00~18:00

場所: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス 会場名 WY (B3棟 205室)

【議題】

1) 次期若手奨励賞審査委員, 領域10インフォーマルミーティング報告

野田先生(東北大学)により、次期若手奨励賞審査委員および領域10インフォーマルミーティングの報告がなされた。

(1) 次期若手奨励賞審査委員(2010.10.1より2年間)には、誘電体分科からは黒岩芳弘先生(広島大学理学研究科)が選出されたことが報告された。

(2) メーリングリストは武貞先生(北大)、誘電体分科のHPは狩野先生(岡山大学)が管理することが報告された。

(3) 領域10の領域代表は、前田康二先生(東京大学大学院工学系研究科)、副代表が伊藤満先生(東京工業大学応用セラミックス研究所)に決定したことが報告された。

2) 次々期領域運営委員の選出

森分先生(JFCC)から、次々期領域運営委員(任期2011年5月~2012年3月)の選出について説明がなされた。

(1) 次々期領域運営委員(任期2011年5月~2012年3月)をメーリングリストを通じて募集を行った。

(2) また、本IMでの推挙があがらなかった。そこで、世話人グループから、塚田真也先生(島根大学)を提案した。

(3) 賛同多数で、塚田真也先生(島根大学)に領域運営委員をお願いすることで承認された。

3) 次回シンポジウム等の企画

森分先生(JFCC)より、2011年3月年次大会(新潟大学)での、シンポジウムについて提案がなされ、議論された。以下のような質疑応答がなされた。

1. 企業で行われている理論的研究も考慮して、プログラムを組む方がよいのではないか。

提案されたシンポジウムの内容は以下の通りである。

*****領域10シンポジウム(案)*****

(仮題) 誘電体応用研究最前線 -Theory meets industry-

(内容説明) 誘電体、強誘電体は基礎物理における学術的興味のみならず、実用上・応用上の工学的見地からも重要な材料群を形成している。例えばBaTiO₃はその発見直後から直ちにコンデンサへの応用研究が行われ、現在でも積層セラミックスコンデンサ(MLCC)の主成分として広く用い

られている。本シンポジウムでは、企業・大学等の研究機関において強誘電体、誘電体材料群にどのような応用的見地での研究が行われているかをそれぞれ最先端の先鋭的な研究者を招聘して講演していただき、基礎物理と応用研究を融合させた議論を行うとともに、誘電体分野における新しい研究の方向性について議論することを目的とする。

講演予定者(交渉中)

1. 森分 博紀 (JFCC) (はじめに)
2. 坂部 行雄(村田製作所) (BaTiO₃ の発見から MLCC 材料の最前線)
3. 岸 弘志(太陽誘電) (太陽誘電における材料開発の最前線)
4. 佐藤 直樹 (TDK) (TDK における材料開発の最前線)
5. 斉藤 康善(豊田中研) (非鉛圧電材料開発の最前線)
d33=400pm/V のニオブ酸系圧電セラミックス KNN-based ceramic materials.
6. 鶴見 敬章(東京工業大学) (強誘電体材料全般)
7. 和田 智志(山梨大学) (ナノキューブ, ナノ粒子, ドメインエンジニアリング)
8. 山本 孝(防衛大学校) (「セラミック誘電体工学」とその後の発展)

4) 学会の報告・案内

以下の国際会議、研究会について報告がなされた。

(1) RCBJSF-10 第 10 回日露/CIS/バルチック強誘電体シンポジウム

日程: 2010 年 6 月 20 日~24 日 場所: 東京工業大学すずかけ台キャンパス

報告者: 東工大 谷口博基氏

(2) AMF-AMEC-2010 報告者: 名工大 岩田真氏

The 7th Asian Meeting on Ferroelectricity and the 7th Asian Meeting on ElectroCeramics

2010年6月28日-7月1日 韓国濟州島 ラマダプラザホテル

General Chairs: Prof. Tae Won Noh (SNU) Prof. Hyeong Joon Kim (SNU)

発表 773 件, 登録 613 人 5会場のパラレルセッション;ポスターセッション3回

Plenary: Prof. Ramesh, Prof. Scott, 細野先生(東工大), 韓国人(サムソン電気)

次回予定

AMF 2012.12 Thailand AMEC 2010.6 Malaysia Penang Prof. Ong

(3) 10th International Symposium on Ferroic Domains 報告者: 名工大 岩田真氏

(サテライト: Workshop on Piezoresponse Force Microscopy)

2010年9月20日-9月24日 チェコ・プラハ, Kaiserstejnky Palace General Chair: Prof. J. Hlinka

次回予定

2012.8 Ekaterinburg Russia で日露会議と合同開催

(4) The 8th Korea-Japan Conference on Ferroelectricity 報告者: 広島大学 黒岩芳弘氏

日程: 2010 年 8 月 3-6 日 場所: 姫路

- Chair: Prof. Masaru Shimizu (Univ. of Hyogo)
- 期間: 2010年8月3日~6日
- 会場: イーグレ姫路(兵庫)
- 参加者数: 合計139名
日本: 73名(学生27名) 韓国: 66名(学生30名)
- 次回開催について

Chair: Prof. Ill Won Kim (Univ. of Ulsan)

時期: 2012年8月? (調整中)

会場: ウルサン市内

- (5) フューチャー・フェロエレクトリクス ～第2回 誘電体若手夏の学校～
日程: 2010年8月7日～8日 場所: 軽井沢 報告者: 岡山大学 狩野旬氏

学会の案内

- (1) フューチャー・フェロエレクトリクス ～第3回 誘電体若手夏の学校～
報告者: 東北大学多元研 鬼柳亮嗣氏
日時: 2011年8月9日(火)～8月10日(水) (2泊3日にする可能性もあり)
場所: 東北大学川渡共同セミナーセンター (宮城県大崎市なるお温泉字原75)
校長: 尾崎友厚 (府立大) 副校長: 石川喜久 (東北大多元)

- (2) International Conference on Frustration in Condensed Matter (ICFCM)

日程 2011年1月11日～14日 場所: 宮城県仙台市 報告者: 原研 大和田謙二氏

5) 連絡事項

- (1) 第66回年次大会について
2011年3月25日～28日 新潟大学

IV. 第66回年次関係の今後のスケジュール (予定)

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. シンポジウム, 招待・企画講演等企画募集掲載 | 会誌 2010年 10月号 |
| 2. 講演募集要項掲載 | 会誌 2010年 11月号 |
| 3. 招待講演, 企画講演, シンポジウム企画申込期間 (web受付) | 2010年10月8日 (金)～11月16日 (火)
(※物性領域公募締切は10月31日) |
| 4. インフォーマルミーティング申込期間 (web予定) | 2010年10月8日 (金)～11月26日 (金) |
| 5. 素核宇領域・物性領域プログラム小委員会/領域委員会 | 2010年11月24日 (水) |
| 6. 一般講演 申込期間 | 郵送: 2010年11月5日 (金)～11月19日 (金)
Web: 2010年11月5日 (金)～11月28日 (日) |
| 7. <u>プログラム編集会議</u> | 2010年 12月 10日 (金) |
- (領域運営委員(旧: 領域世話人)または領域運営委員代理の方に出席して頂きます。
場所: 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内会議室)

- 6) その他
特になし

以上